

## \* 研究目的

言語学習は社会的活動の一環であり（参照：Vygotsky, Bakhtin）、学生は協力し理解し合うことで言葉を学んでいきます。つまり、その外国語を通して実体験から学習し、その言語に関する知識を養い、会話する能力を伸ばしていきます。

この研究の特徴は ICT を利用することで、オンライン教材だけでなく教科書を用いて教室内外における学習環境をつくり、ジャンル・ベース・ライティングを取り入れた指導、学習を可能にします。テクノロジーを用いてのジャンル・ベース・ライティングのアプローチの効果は、これまでに調査されていないため、研究したいと考えています。

これにより、学習者は教室の内外で従来の教材に加え、オンラインの教材を用いて新しい協力体制を築くことが出来ますが、これは予算次第です。本研究は、インターアクティブ電子ホワイトボードを西宮キャンパスで（全体授業形式で）使用し、インターアクティブ・パッド（個人使用）とポータブル電子ホワイトボードを組み合わせ、西宮キャンパス、岡本キャンパス、甲南高校をつないで実施します。これは、学生のライティングを修正、編集したデータを追跡し、学力の伸びを測定する効果的な方法です。学生がペンで書き取ったデータが保存されたメモリをもとに細やかなフィードバック（評価やコメント）を提供できるので、学生の関心と動機の向上に結びつく大きな利益をもたらします。

したがって、この研究はライティングのプロセスをも指導することができる全く新しいアプローチを生み出すと考えられます。

その他の主な目的は以下のとおりです：

- ・ 学生がライティングする際のプロセスやその流れを実際に電子手段で把握し、時間差のあるコミュニケーションの認知的・社会的プロセスをより理解するため
- ・ 日本の大学、高校での英語の授業におけるジャンル指導を研究、評価し、学生が外国語でライティングする際にどこが難しいのかを認識することで、より上手な文が書ける能力を養うため
- ・ 教師がジャンル・ベース・ライティングによる指導法を理解し、その利点を実証するため
- ・ 学習者が実践的かつ機能的に文章が書けるように、適切で効果的に教師がジャンル指導できる教材を開発する
- ・ ライティング指導の質的な飛躍が可能となる最新技術を利用することで、教師の指導技術や能力を伸ばすため

オーストラリアではすでにライティングのジャンル・ベース・アプローチの成功例が確認されており、それに携わったオーストラリアの研究チームのスタッフと共にインドネシアを訪問し、現地の24ヶ所の学校で行われている大規模なプロジェクトを観察する予定です。最新テクノロジーを使用することによるライティングの指導、学習の効用はまだ調査されていません。

ゆえに、本研究の調査質問、仮説は以下の通りです：

1. 学生はコミュニケーションなライティング能力やジャンルに対する意識がたいてい欠けて

いるため、彼らが何を理解しているのかや、新たな試みでどんな効果が現れるのかを調べる

2. 一学期にわたるジャンル・ベース・ライティングの明示的指導により、80%以上の学生が自分自身でジャンルを意識し、そのライティング能力を発揮できるようになるか
3. ジャンルに焦点をおいて明確に説明されている教材を使うことで、ジャンル・ベース・アプローチをよく知らない教師に影響を与えることができるか

#### \*研究チームメンバーと研究課題

Roger Palmer	甲南大学マネジメント創造学部 専任講師	ジャンル・ベース・ライティング に ICT を適応し、教室内で使う教材やオンライン教材を統合 プロジェクトと ICT の管理、インドネシアにおける授業観察と発表、西宮キャンパスでの授業、ICT によるジャンル・ベース・ライティング指導、リサーチ・メソッド、データ収集、論文執筆、等
Greg Rouault	甲南大学マネジメント創造学部 特定任期教員	ジャンル・ベース・ライティングのサンプル作成（大学・高校）、インドネシアにおける授業観察と発表、西宮キャンパスでの授業、ICT によるジャンル・ベース・ライティング指導、リサーチ・メソッド、データ収集、論文執筆、等
Kayo Yoshida	甲南大学国際言語文化センター 専任講師	TOEFL ライティング、岡本キャンパスでの授業、ICT によるジャンル・ベース・ライティング指導、リサーチ・メソッド、データ収集、論文執筆、等